

事業の実績	
	<p>① 第1回学生WEB選書ツアー及び第2回学生選書ツアー  日時：第1回 令和7年8月 6日（水）～8月31日（日）※WEB選書（丸善ジュンク堂ホームページを利用）  第2回 令和7年9月10日（水）福岡市内の書店巡り※丸善博多店／紀伊國屋書店（選書は丸善博多店）  参加者：11名（学部生及び大学院生）</p> <p>② 「オープンライブラリー」  日時：令和7年11月 1日（土）10：00～15：00  内容：「映画上映会」「資料展示」「フォトスポット」「トークイベント」  場所：図書館1階ラーニング・コモンズフロア 他  入館者数：70名 ※託麻祭に併せて図書館フロアを開放</p> <p>③ 「図書館長杯 書評及びプレゼン大会」  募集期間：令和7年9月16日（火）～10月31日（金）  応募資格：学部生・大学院生  応募から表彰まで：応募フォームによる応募／図書館蔵書による選書・執筆／プレゼンテーション  プレゼンテーション日時：令和7年11月12日（水）15：00～16：30  場所：図書館1階ラーニング・コモンズフロア  参加者：7名（表彰式は11月26日，受賞者7名）</p> <p>④ 「熊本学園大学附属図書館における教育・研究及び学修支援実態調査」  実施期間：令和7年12月17日（水）～令和8年1月16日（金）  対象：学部生・大学院生・教員  回答方法：ポータルサイトによるWebアンケート  目的：図書館利用者のニーズ把握や教育及び研究、学修支援環境の整備状況を知る。  教育の質向上と教育・学修支援の充実を目指す。  教育・学修環境の充実に資する学術情報基盤を整備し、課題解決や自発的な図書館利用促進を目指す。</p> <p>回答数・回答率：学部生及び大学院生 179名,3.8% /教員 42名, 10.4%  結果報告：掲示物・図書館HPにて報告</p> <p>⑤ 「電子ブック利用説明会及び映画上映会」  日時：令和8年1月13日（火）～2月6日（金）9：00～17：00  内容：「電子ブックKinoDen／MeL利用説明会」「映画上映会」  場所：図書館1階ラーニング・コモンズフロア  対象：学部生・大学院生・教員・職員</p>

具体的な成果	
	<p>① 「選書ツアー」とは、図書館へ置く本をWeb及び書店で選んでもらう企画である。参加者一人あたり20冊（上限3万円）を選書し、紹介用のポップを作成することで、選んだ本の優先貸し出しや図書カード進呈の特典がつく。学園バスで福岡市内の書店を巡るツアーは、車窓からの眺めも良く、参加者からは好評であった。図書館としても、学生が求める図書資料の傾向を知ることができたり、学生の視点で選んだ図書を蔵書へ反映させたりと、図書館の利用促進や図書の貸出数の増加がみられた。学生へ図書館の魅力的な取り組みを知ってもらい、さらに参加者が増えるように内容の見直しや情宣の工夫が今後の課題として挙げられる。</p> <p>選書本の一覧リストについては、図書館HPを参照  <a href="https://www.lib.kumagaku.ac.jp/news">https://www.lib.kumagaku.ac.jp/news</a></p> <p>② キャッチコピー“ご家族で大学図書館へ遊びに来ませんか”を掲げ、現図書館の開館30周年記念イベントとして開催した。学内外へ図書館の魅力をアピールし、地域社会への貢献を促進することを狙いとして中高生、保護者同伴であれば小学生以下も入館可とした。準備の段階から図書館スタッフをイベント・展示などそれぞれにチーム分けし、全員が業務を担当するようにしたことで連携が生まれ、効率よく進めることができた。オープンライブラリーを目当てとした入館者数は70名であった。アンケート結果（25件の回答）は概ね好評で、一定の成果は得られたと思っている。参加型のイベントやクイズを通じて、主催者と参加者が一体となった楽しい時間となった。とりわけ、参加者が自分の好きな本について各々語るトークイベント「ひのトーク」は、学生コンシェルジュが司会進行を務め、小学生の親子連れなど6名が参加し、和やかな雰囲気となった。</p> <p>学外への開催報告については、図書館報『大楠』第64号を参照  <a href="https://www.lib.kumagaku.ac.jp/oaks">https://www.lib.kumagaku.ac.jp/oaks</a></p> <p>③ 本企画は図書館に所蔵する図書の中から好きな本を1冊選び、書評作成とプレゼンテーションを行うことで総合的な評価を仰ぐことを目的としたものである。図書館では、選書した図書に一言コメントを添えたポップの展示については、複数回実施しているが、1冊に熱い思いを込めた書評を作成し、皆の前で図書をプレゼンテーションするのは、初めての試みである。今年度は現図書館開館30周年の記念すべき年でもあり、「図書館長杯」という名を冠し、次年度も継続的に実施し、その効果を検証することで「学生懸賞論文」に代わる新しい形としての定着化を目指した。9月16日～10月31日にかけて、本が好きな人や自分の文章力を試したい人、自分が書いた書評が誰かに人生を変える本との出会いをもたらすかもしれないという思いを抱いた人などを対象に、書評を読書感想文の一步先と捉え、大学での学修成果や図書館のラーニング・コモンズフロアで発表する機会として募集したところ、7名の学部生がエントリーしてくれた。11月12日（水）の書評プレゼンテーションでは、7名全員が本の魅力を5～10分程度で紹介し、なぜこの本を選んだか（きっかけ）を語ったり、エピソードを入れたり、書評を読んでプレゼン会場に集まった聞き手へ熱く話ってくれた。書評やプレゼンを総合的に評価した結果、最優秀賞やひのと賞など全員の受賞が決定し、11月26日（水）に、図書館長より賞状や賞金（図書カード）が授与された。今後については、書評をメインに利用者の興味・関心が持てる企画の定着化と、広報の魅せ方を工夫することで、さらなる図書館の活性化へと繋げていく。</p> <p>受賞者7名の書評や表彰式の様子については、図書館HP、Facebook、Xを参照  <a href="https://www.lib.kumagaku.ac.jp/news">https://www.lib.kumagaku.ac.jp/news</a> 他</p>

具体的な成果	
	<p>④ 本アンケートは、熊本学園大学付属図書館のサービス向上のために学部生及び大学院生と、教員の利用動向を調査し、ニーズを把握することを目的として12月16日～翌年の1月16日まで実施した。(回答総数221名)図書館は大学組織の一部であり、学生と教員(研究者)を主たる利用対象者として必要な学術情報を効果的に提供することを目的としている。近年の大学を取り巻く環境の変化や学修スタイルの変化に伴い、従来の学修支援から能動的な学修支援への転換、そして図書館のDX推進(新しい「デジタル・ライブラリー」の実現)に向けて検討が始まったところである。現在の図書館は、熊本学園創立50周年記念事業の一環として平成7年4月1日に開館し、今年で30年という節目の年を迎えた。この間、ラーニング・コモンズフロアの設置や熊本地震による大幅改修、コロナ禍を経て現在に至っている。教育の質向上と学修支援の充実を図ること、学術情報基盤を整備し、課題解決や自主的な図書館利用促進、到達目標となる教育研究及び学修の成果へと繋げていくことをふまえ、アンケートの集計結果から図書館における現状の分析と継続的な効果の測定を目的とした。</p> <p>集計結果については、図書館HPを参照  <a href="https://www.lib.kumagaku.ac.jp/news">https://www.lib.kumagaku.ac.jp/news</a></p> <p>⑤ 図書館の利用者が増える定期試験期間にあわせて、紀伊國屋書店及び丸善雄松堂書店が提供する学術和書電子図書館サービス「KinoDen」と「MeL」(Maruzen eBook Library)の全コンテンツの全文試し読みができるように設定し、気に入ったものがあれば購入リクエストができるサービス機能を追加した。全文試し読み期間中は学部生、大学院生、教職員を対象にラーニング・コモンズフロアで利用説明会を行い、自宅や外出先からでも快適に利用することができるメリットを伝え、研究・学修・収書の新しいかたちについて紹介した。学生コンシェルジュもスタッフとして参加し、PCで検索した一覧画面をモニターへ投影したり、スマートフォンやタブレットのダウンロードやアプリの操作方法を説明したりした。リクエスト終了後は、自動車産業や卒業論文のテーマ関連本など、合計15冊の電子ブックを購入する運びとなった。また、学外アクセス数値の増加も見られた。図書館の開館時間や場所に縛られない学修や研究の機会、電子ブックの機能やサービスを提供することで、学生の学ぶ意欲の支援や教員の研究環境の充実を図ることができる。今後も、定期的に電子資料のガイダンスを行うことで、利用促進と図書館利用の多様化を図りたい。</p> <p>また、今年度の教育研究支援事業(学長裁量経費)で大型モニター(50インチ/65インチ)を導入したことで、映画上映会を行うことができた。図書館1階のラーニング・コモンズフロアで来館者の興味・関心をひくような映像資料(許諾権付)を流し、その効果もあって2階のAVコーナーの施設利用や資料の貸出が増加した。上映会後は65インチのモニターをAVルームへ移設することで30名規模での利用促進へとつなげていく。</p> <p>&lt;総括&gt;  ラーニング・コモンズを活用した図書館における学生の能動的学修の支援としては、まずまずの効果が得られたのではないかと。しかしながら、当初計画していた「トークイベント」については、学生コンシェルジュの就職活動や実習時期と重なってしまい、次年度へ開催することとなった。総じて、各種イベントの企画や運営においては、学生コンシェルジュも図書館スタッフの一員として加わり、イベント後のミーティングで活動の振り返りを行ったり、意見を交わしたりと成長していく姿が見られ、実践力・行動力がさらに向上した。</p> <p>オープンライブラリーについては、地域に根ざした図書館として広く内外へアピールしたことは多少なりとも地域への効果的発信ができたと思う。今後も利用状況を把握し、課題を解決する</p>

ことで魅力ある図書館づくりを行っていきたい。

大学図書館のミッションは、資料や情報、施設（空間）や職員というリソースを使って大学の機能の実現を支援することである。各種コンテンツや空間、人的支援の有機的な連携を図り、さらなる図書館の機能強化と組織運営体制の改善を進めていきたい。引き続きデジタル環境への対応や多様な学びの場の提供、専門的知識を持った職員を配置し、積極的に情報を発信することで「熊本学園大学の図書館が何か面白いことをやっている」という印象を持ってもらえる一歩となれば幸いである。

以 上